

会 議 報 告 書

1	会議名	平成29年度第1回北上市子ども・子育て会議		
2	日 時	平成29年7月28日（金） 午後3時30分から5時まで	3 場 所	本庁舎5階第1会議室
4	出席者	<p>【委 員】14名（別紙名簿のとおり）</p> <p>【事務局】6名（市長、教育長、教育部長、子育て支援課長、子育て支援課長補佐、育児支援係長）</p> <p>【傍聴者】2名（報道機関）</p>		
<p>会議に先立ち、新たに委嘱した委員に委嘱状を交付した。</p> <p>1 開 会 （子育て支援課長）</p> <p>2 あいさつ（市長、今西会長） ※委員及び市出席者紹介</p> <p>3 報 告 （今西会長進行）</p> <p style="padding-left: 20px;">北上市子ども・子育て支援事業計画の実施状況について（平成28年度末現在）</p> <p style="padding-left: 20px;">説明の要旨</p> <p style="padding-left: 20px;">北上市子ども・子育て支援事業計画に記載されている67事業の進捗状況について、資料に沿って主な項目について報告した。</p> <p style="padding-left: 20px;">【質疑、意見】</p> <p style="padding-left: 40px;">なし</p> <p>4 議事</p> <p style="padding-left: 20px;">保育園、認定こども園、小規模保育事業、幼稚園の利用定員について</p> <p style="padding-left: 20px;">説明の要旨</p> <p style="padding-left: 20px;">30年度開所を予定する小規模保育事業の認可を希望する事業者があったことから、現在の利用定員の状況と、子ども・子育て支援事業計画で定めた平成29年度及び30年度の利用定員の計画について、資料により説明し協議した。</p> <p style="padding-left: 20px;">【質疑、意見】</p> <p style="padding-left: 40px;">最近国から利用定員の間見直しについての通知が来ているが、当市の見直し時期はいつか。 →今年中に子ども・子育て会議において審議し、中間見直しを実施する予定である。</p> <p>5 その他</p> <p style="padding-left: 20px;">【情報交換】</p> <p style="padding-left: 40px;">（会長）</p> <p style="padding-left: 40px;">・最近、言葉の未発達さ（理解度や語彙数の低下）を感じる。家庭での接し方が重要であり、啓発を促すような取組が必要。人と人のやり取りの中で言葉が習得される。家庭での接し方の重要性を伝えていく全市的な取組が必要ではないか。</p> <p style="padding-left: 40px;">（委員）</p> <p style="padding-left: 40px;">・学生の間では環境が便利になり過ぎて、言葉を発しなくてもやりとりができ通じるようになっていと感じる。学校では「幼児のことば」の授業があり、実際にどのような言葉を使えばいいのかを指導している。今後も努力していきたい。</p> <p style="text-align: right;">（次頁あり）</p>				

(委員)

・生徒をみていると、関わる人の世代が限定的であるように感じる。多世代と関わっていないので、言葉が合っていないと感じることも多い。いろいろな機会を設けていくことが大事であり、子ども達ひとりひとりと丁寧に関わっていくための指導はますます重要になってくるだろう。

(委員)

・最近「略語」がテレビなど公の場で普通に使われており、言葉の本当の意味や語原が伝わっていない、日本全体がそのような風潮であるように感じる(悪いところ)。黒北地区に住んでおり、朝の交通指導時、横断歩道を渡った後に児童は必ず振返って「ありがとう」とお礼をする(いいところ)。今の言葉はいいところと悪いところがごちゃ混ぜになっているのではないかと。本当の言葉を聞いていないからうまく伝わらないのでは。

(委員)

・子どもの言葉の発達、赤ちゃんが喃語を発した時点から始まっている。妊娠中からお腹の赤ちゃんに向かって話しかけたり、生まれた赤ちゃんに対していろんな言葉を話しかける等、妊婦健診で伝えていくことが重要であると感じている。同年齢の幼児であっても言葉の数や語彙には差があり、コミュニケーションの大切さを実感している。最近、健康増進課の出前講座を受講し、スマホに子守をさせず言葉によるコミュニケーションを取るものの大切さを学ぶ良い機会となった。

(会長)

・言葉の獲得は学力の向上につながっており見逃せないと思う。言葉をどれだけ知っているのか、非常に重要であり、これから大学入試に対応できない子どもが増えていくことが懸念される。

(教育部長)

・市では健康増進課の集団検診(1歳半、2歳半、3歳半)において、子どもの発達状況だけでなく母親の関わり方をみている。K式発達調査を実施し、発達や言葉の遅れがあった場合は適切な支援につなげており、特に2歳半健診は北上市独自で実施している。

・言葉の語彙、気持ちと言葉ということについては、どうやって豊かにしていくかという教育の部分が家庭にゆだねられている状況となっている。家庭の教育にいかに関わりを持つていくのかは市全体の課題であり、市の中でも連携が必要である。貧困や引きこもりにつながっていく根の部分であり肝に銘じて進めていかねばならないが、行政だけではなく、地域、幼稚園、保育園、学校等とさまざまな部分で連携を取って進めなければならない。

(子育て支援課長)

・貧困世帯の全国実態調査結果が出ており、家庭環境が子どもの成長に大きく関わっているという結果が出ている。当市においても貧困家庭を含めた生活実態調査を実施し、研究していきたい。

(委員)

・市内の保育園・幼稚園は日曜日開所していない。認可外施設の休日開所はあるようだが、当市は3交代勤務も多く日曜日開所のニーズもあるはず。見えない部分で子ども達がどうなっているのか心配である。

(教育部長)

・日曜日、休日、夜間保育等、解消すべき課題として検討していきたい。

(委員)

・中学生が職場体験に来ているが、学校では挨拶ができていと思うが所変わればできないということがある、どんな場面でもできればいいと感じる。教えてあげたいという思いもあるが、昨今は「変な人に声をかけられた」と思われることも懸念される。地域の中で皆が子どもたちを見守っている、気軽に声掛けができる北上市であればいいと思う。

(次頁あり)

(委員)

・アメリカのドーマン博士が唱えている「ドーマン法」、運動機能や言語機能の発達が遅れている子ども達が変わったというプログラムがある。できないからやらないではなく、繰り返し行うことにより克服できるといもの。

(委員)

・会社に入社する高卒社員は学校の指導もあり最初は挨拶をするが、徐々に挨拶をしなくなる傾向があり、目上の人から先に挨拶をする「先手挨拶」という取組みをしている。

・会社にフードバンク岩手から食料品の提供依頼が来ているが、市内に同様の取組みはあるのか。

(教育部長)

・市内に子ども食堂はないが、北上市社会福祉協議会がフードバンク食品募集を行っており、学習支援の延長として食事の提供も行っている。通年の活動ではなく、時期を決めて行っている。

(委員)

・アメリカにはパーティーで残ったものを集めるセンターがあり、集まった物資を恵まれない子どもたちへの支援に利用している。同様の支援を日本でする場合、日本人は受け取ってくれるか、もらってはいけない、恥ずかしいという気持ちが先に立ってしまうのではないか。日々食べることも困っている家庭があるとすれば、そのようなシステムを考えてもいい時代ではないかと思う。

(委員)

・A型の小規模保育所改修予定計画があるが、保育園の臨時保育士確保が難しくなることも予想され処遇改善等さらに力を入れていかなければならない分野であると感じている。

(委員)

・今年5月に新たな黒沢尻北学童保育所が完成した。全小学校区に学童保育所が整備されている市町村は、北上市が県内唯一であり、モデルケースとしても注目されており発言力もある。(自分が父母会長である) 笠松小学校の学童保育所は築70年経過しており老朽化も著しい。今後も継続して支援及び施設整備を進めてほしい。

(委員)

・小・中学校教諭の時間外勤務が多い(平均小学校40時間、中学校70時間)ということを知っているが、甚だしい数字であり心配である。PTAも可能な限り支援はしていくが限界はあり、時間外が削減できるような体制を整えてもらいたい。

・児童医療費給付事業の対象年齢が小学校6年生まで拡大したが、ぜひ中学校まで引き上げてもらいたい。

(委員)

・地域づくりの中で16地区ごとに様々な事業を展開している。どの地区でも必ず乳幼児学級は実施しており、地域の事業は行政の隙間を埋めることにも繋がっており、地域の中に入り込んで、できるだけ市民の皆様に活用いただきたい。

(教育長)

・この会議は皆様それぞれの立場から市の子育て施策に対する情報交換や提案をいただく貴重な場である。今後も意見等があれば担当課へ伝えてほしい。

・本日午前中、和賀地区の自治協が中心となり、横川目幼稚園・横川目保育園の統合による認定こども園化に係る要望書をいただいた。地元から場所を和賀庁舎付近と選定した要望をいただいております。地元の意向を大事にしながら前向きに検討したいと回答をしたところである。

・北上市はまだまだのところもあるが、少しずつ改善はしており、今後とも皆様にご尽力願いたい。